

未だ

無論僕は耳を澄ませています
かすかな情念の揺らぎに

無論僕は目を凝らしています
言葉の中にひそむかすかな祈りを

そうです、祈りです
則ち神です

それにしても僕は一体
何をやっているんでしょう

玉ネギを刻んでしょうゆと鰹節をかけ
オンザロックに涙するとは
まるで私にとっての幸福は
そんじょそこらのものとは違うんだよと言わんばかり

それでも僕は祈っています
人々の祈りに対して祈るのです
それはつまり、信じているからです
‘祈り’というものの純粹さを

貴方は知っていた
そして感じていた、けれども
それを口に出すことをためらった
何故・・・・・・・・

宗教ではありえないのに・・・
祈りは宗教でなどありえないのです
宗教の中には神など居ないのです
ましてや創造など在りえないのです

雨が降っています
バッハが鳴り響いています
多くの人々は眠っています
私も眠るでしょう

私には時を濃縮することはできません
むしろ常に薄められているのが実態です

買い被りを恐れてはなりません
いや、僕は何を言っているんでしょう

とにかく僕は祈っています
そうです、祈りです
則ち、それこそが祈りです

(1991.6.1)